

令和4年度 第4回銚子市介護保険事業等運営協議会 議事録

日 時 令和5年3月16日（木） 午後2時30分から3時10分

場 所 議会棟全員協議会室

出席委員（委員総数17名中16名出席）

高橋委員、泉委員、米谷委員、兒玉委員、田代委員、高田委員、宮内委員、宇佐美委員、菅澤委員、鈴木一男委員、小澤委員、伊東委員、文平委員、椎名委員、鈴木真理子委員、宮澤委員

（欠席委員：鈴木稔委員）

出席職員

伊藤課長、八角補佐、林補佐

菱木主査、加瀬主査、加瀬（暁）主事

江波戸主査、鈴木主査、武藤副主査、飯塚主任保健師

加藤東部地域包括支援センター長、岩瀬中央地域包括支援センター長、峯岸西部地域包括支援センター長

【交代委員紹介】

銚子市民生委員児童委員協議会推薦委員の交代を報告

【議事】

- (1) 令和4年度委託型地域包括支援センター業務の評価、点検について 資料1
- (2) 銚子市地域包括支援センターの設置の承認及び介護予防支援事業所の指定について 資料2

【要旨】

- (1) 令和4年度委託型地域包括支援センター業務の評価、点検について 資料1

質疑・意見	事務局回答など
各地域包括支援センターとも年々成熟して、業務を確実に 行っていると感じている。引き続きお願いしたい。 特にケアラーやヤングケアラーの育成に関して、非常に必 要なこと。医師会としても協力出来ることもあるので、相 談していただきたい。	
高齢者虐待の発生要因について分析出来たとあるが、市の 特徴やどうして虐待が起きてしまうのか。	擁護者による虐待相談件数は令和4年度は年度途中だが2 4件、令和3年度29件、令和2年度35件。包括支援セ ンター毎にそれぞれの傾向がつかめている。全てが虐待と いう判断ではなく虐待と認定したケースは各包括支援セン ターによって4割から6割程度となっている。最終的に虐 待と判断していないケース、確実に虐待ではなくても包括 支援センターに相談があることは良いことと考えている。

<p>認知症の方が受けた虐待が市は25%ということだが、表に現れていなく、隠れていることはあるか。</p>	<p>虐待には五つの類型があり、そのうち、身体的虐待、あざや怪我があるといった通報が一番多く、次いで心理的虐待、ネグレクト、経済的虐待となっている。身体的虐待は介護職員からも実際にあざや切り傷があるなど相談はしやすいと感じている。心理的虐待は暴言をはくなど目に見えない、わからない、表面化しづらい虐待もあり、介護職員などに対して早期発見の働きかけが必要と感じている。</p> <p>相談通報者として一番多いのはケアマネジャー、次いで警察。虐待分析を行った結果として、近所からの相談が非常に少ない。早い段階から相談対応ができるよう、市民へ早期発見の働きかけが必要と感じ、住民向けの「高齢者虐待の早期発見のために」というチラシと「介護をしている方が一人で抱え込まないように」というチラシを作成し、周知活動を始めている。</p> <p>認知症の方が虐待を受けたケースは、県は4割程度、市は25%、県と比較すると県が多い。虐待を受けた高齢者の8割以上が女性で男性からの発信が少なく、抱え込んで重症化してしまう危険性が高い。今年度、新たに実証した虐待分析になるので来年度はさらに深めて、早期発見、再発防止の取組を実施したい。</p> <p>心配するところである。</p>
<p>災害時の対策について、関係機関と連絡をしながら地域ぐるみの活動に繋がられている。保健所では難病患者の相談などを行っているが、災害時の対策の相談もある。その際には相談させていただきたい。</p>	
<p>障害者の虐待はなかったか。</p>	<p>障害者の虐待は障害支援室担当となるが、高齢者で元々、精神的障害、身体的障害がある方、また、同居の家族に障害者がいる方の相談はあった。</p>

- (2) 銚子市地域包括支援センターの設置の承認及び介護予防支援事業所の指定について 資料2
設置の承認及び指定について諮ったところ、異議なしにて承認を得た。

【高齢者福祉課長 あいさつ】

委員の任期中最後の会議となるので、3年間委員としてご協力いただいたことへの感謝と引き続きのご協力をお願いのあいさつ。

【その他】

次期委員の委嘱について、4月上旬に推薦、就任依頼の予定とし、会議終了とした。